

ICTで授業をDX!

学年 中学校2年 教科 美術 など

コラージュでイメージスケッチをつくろう

使用するアプリケーション等

- ・ペイントソフト
- ・カメラ

単元・題材 10年後の自分を表現しよう（自画像）

本時の目標 イメージスケッチを作ろう

ICTを活用することで できること

- ・端末のカメラを使うことで、自画像を描くときに鏡を使わずに描くことができる。鏡と違い、動くことなく様々な表情を表現に生かすことができる。また、撮影時にマスクを外すだけなので感染症予防にも効果がある。
- ・頭の中にあるイメージをインターネットにある画像と組み合わせてスケッチを行うことで、イメージをより鮮明に表現することができる。
- ・イメージスケッチを行うことで実際に、画用紙に表現するときの参考資料として生かし、より繊細な表現に取り組むことができる。
- ・ペイントソフトの機能を使い、新たな表現に気付くことができる。

DX前（ICTを使っていなかった頃は・・・）

1 導入

- ①自己評価カードを確認し、前時の振り返りを行う。
 - 将来の夢ややってみたいことについて考えるよう伝える。

2 展開

- ①スケッチブックに自分の描きたい絵の全体のイメージを描く。
 - スケッチブックに絵の計画を立てるように伝える。
- ②資料集や教科書などの写真を参考にイメージを描いていく。
 - 描きたい物についての写真などを図書室の本などを参考にしよう伝える。
- ③鏡に写る自分の顔を見て、細部や陰影を意識しながら鉛筆でスケッチをする。
 - 鏡に写る自分の顔を観察し特徴や色の濃淡などを観察する。

3 まとめ

- ①使用した用具や机上の整頓を行う。
- ②自己評価カードを記入し、本時の振り返りを行う。
- ③次時に何をすべきかを考え、計画を立てる。
 - 次回に必要な資料や写真を集めておくように伝える。

DX!

DX後（赤字はICT活用場面）

1 導入

- ①自己評価カードを確認し、前時の振り返りを行う。
- ②カメラやペイントソフトの使い方や活用方法について思い出す。
 - 前時にペイントソフトの基本的な使い方の学習をしたことを思い出させる。
- ③コラージュの技法について学ぶ。

2 展開

- ①インターネット上の画像をコラージュでスケッチを作る。
 - ペイントソフトのレイヤー機能を使い、組み合わせていく。
 - 写真の一部を切り取ったり、拡大縮小、回転などをしたりしてみるよう伝える。
- ②自分の作りたい絵に合う、写真などを検索する。
 - 検索ワードによって、よりイメージに近い写真が検索できることを伝える。
 - 写真には著作権があるので、注意が必要であることを伝える。
- ③自分の顔をカメラで撮影する。表情や顔の向きなどを意識する。
 - 生徒同士で互いに撮影し合うこともよいことを伝える。
- ④ペイントソフトを使い、写真や自分の顔をコラージュし、頭の中のイメージを絵として表現していく。
 - 完成したイメージスケッチを元に実際に描くことを伝える。
 - 鉛筆で制作したい場合は、イメージスケッチを白黒にする方法もあることを伝える。
- ⑤イメージスケッチを元に画用紙に描いていく。
 - 彩色する道具は自由なので、何をを使うとよいか考えるよう伝える。

3 まとめ

- ①ペイントソフトを使っている場合は、データの保存を行う。
 - 前のデータを残したい場合は、残せることを伝える。
- ②使用した用具や机上の整頓を行う。
- ③自己評価カードを記入し、本時の振り返りを行う。
- ④次時に何をすべきかを考え、計画を立てる。

授業者から（成果・課題・留意点）

- ・空想画やイメージなどの表現を苦手とする生徒も、手が止まらずにスケッチに取り組むことができた。
- ・写真によるイメージスケッチを基に描いていくので、参考資料として生かすことができた。
- ・カメラを使うことで、描きたい表情を止まった状態で描けるので、描きやすくなった。
- ・ペイントソフトの基本的な使い方の学習に時間がかかる。また、生徒による理解度の差が大きいのを感じた。
- ・デジタルペイントに興味のある生徒は積極的にさまざまな表現に取り組む様子がみられた。